

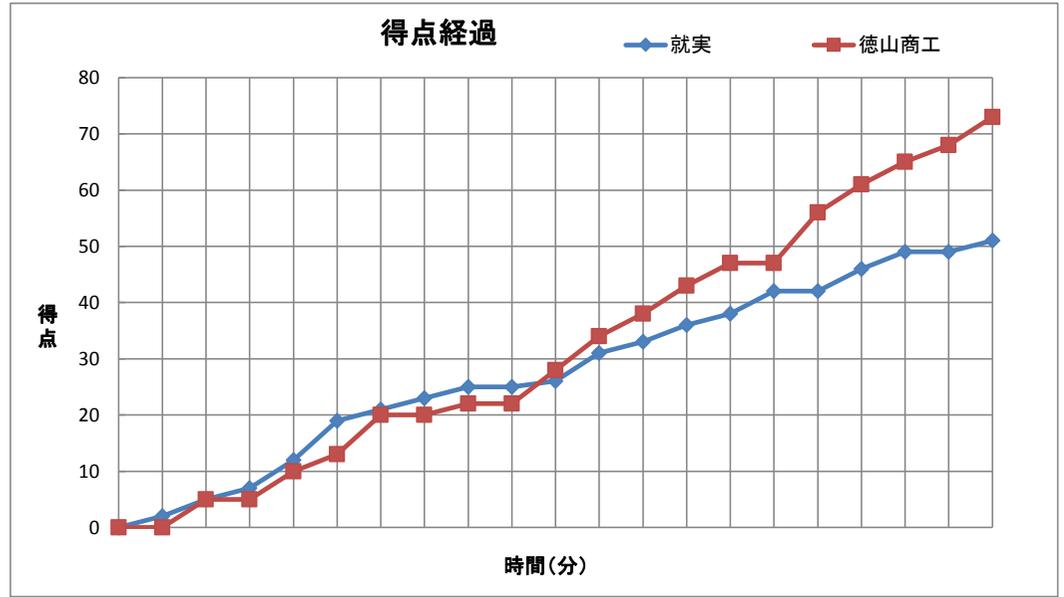


第66回中国高等学校バスケットボール選手権大会

0

個人トータル表

女子		令和4年6月19日		9:00 開始													
準決勝		広島県立総合体育館グリーンアリーナ		D													
就実	51	<table border="1"> <tr><td>19</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>7</td><td>2nd</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>3rd</td><td>19</td></tr> <tr><td>9</td><td>4th</td><td>26</td></tr> </table>	19	1st	13	7	2nd	15	16	3rd	19	9	4th	26	73	◎ 徳山商工	(山口県)
19	1st	13															
7	2nd	15															
16	3rd	19															
9	4th	26															
(岡山県)					(山口県)												
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	川崎 真子	13	1	4	2	0	1	竹内 優月	-	-	-	-	-				
* 5	井上 日湖	21	1	7	4	3	2	田中 沙来	0	0	0	0	0				
* 6	芳賀 心優	2	0	1	0	0	3	山田 理紗	0	0	0	0	0				
* 7	丸山 ほのか	0	0	0	0	2	4	福田 優	0	0	0	0	1				
* 8	大橋 萌加	13	2	3	1	3	5	江藤 莉紗	-	-	-	-	-				
9	田川 唯奈	0	0	0	0	0	* 6	弘中 結羽	4	0	2	0	0				
10	水嶋 凜奈	0	0	0	0	0	7	村田 彩華	0	0	0	0	0				
11	岡本 唯里	2	0	1	0	1	* 8	三浦 琉優	11	3	1	0	2				
12	芳賀 心紅	-	-	-	-	-	10	乗富 由衣	0	0	0	0	0				
13	綱島 菜ノ花	-	-	-	-	-	11	石田 華穂	-	-	-	-	-				
14	元部 直	-	-	-	-	-	12	沖谷 祐希奈	-	-	-	-	-				
15	小田 さくら	0	0	0	0	3	13	中川 滯	-	-	-	-	-				
16	辻村 希	-	-	-	-	-	* 14	京條 麻央	5	0	2	1	1				
17	0	0	0	0	0	0	* 15	藤本 桃加	51	0	21	9	2				
18	0	0	0	0	0	0	* 17	徳原 光咲	2	0	1	0	2				
コーチ	佐原 雅明					0	コーチ	中村 浩正					0				
Aコーチ	斎藤 理恵						Aコーチ	山根 日真莉									
合計		51	4	16	7	12	合計		73	3	3	0	3				
主審:	皆川義紀																
副審:	三島彩																
副審:	熊本裕一朗																



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:
TeamB	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕スタート 就実#4.5.6.7.8、徳山商工#6.8.14.15.17
 1Q 両者マンツーマンディフェンスでスタート。
 就実は、堅実なディフェンスと#4.#5のポストプレーで得点を重ねる。対して、徳山商工は#15にボールを集め、ポストからの1on1やリバウンドで加点していき、拮抗した状態が続く。試合残り2分、就実#8のタイミングの良い3Pシュートやレイアップが決まりだし、19-13就実リードで1ピリオド終了。
 2Q 両者継続してマンツーマンディフェンス。
 徳山商工は1ピリオドに引き続き、#15にボールを集め攻めを展開していく。#15からのキックアウトで#6が3Pシュートを沈め得点が動き出す。試合開始8分で、徳山商工が19-20と逆転に成功。すかさず、就実も#4の力強いドライブからファールを誘った得点や、#5の華麗なステップからのレイアップシュートで加点し23-20と就実リードを許さない。しかし、残り2分、徳山商工のアウトサイドの選手が、スクリーンプレーでズレを作り、#15.17が得点を重ね、26-28と逆転に成功。徳山商工の攻めにリズムが出てきたところで2ピリオド終了。
 3Q 就実はマンツーマン、徳山商工はオールコートマンツーマンに守りを変える。徳山商工は、試合開始2分で#15が1on1から4本連続シュートを決め、33-41と点差を広げる。就実には、相手の粘り強いディフェンスに対し、落ち着いたプレーで#4.5の3Pシュートで得点を重ねる。両者ルーズボールやリバウンド、ディフェンスなど気持ちが出るプレーを頑張り続け、42-47徳山商工がリードで3ピリオド終了。
 4Q 徳山商工#15の勢いのあるドライブで連続得点し、ゲームがスタート。徳山商工は、アウトサイドプレーヤーの足を使った守りから相手のミスを読み、スペースを作った#15の1on1の攻めでリズムを作っていく。就実には、#8の3Pシュートやスピードのあるドライブで食らいついていくが、徳山商工#15の力強いドライブを守り切れず、勢いを止めることができない。徳山商工#15の止まらないドライブと全員で飛び込むリバウンドで得点を重ね、点差を開いていき51-73で徳山商工が勝利を収めた。ブザーが鳴り終わるまで走り切った両者に拍手を送りたい。

戦評: 竹内優香 記録: